



□【ビジネスEXPOに出展します】

平成26年11月6日から7日にかけて、アクセスサッポロにおいて今年もビジネスEXPOが開催されます。

これは道内企業をはじめとする産学官による製品・技術等の情報交換をとおして、商談や新たなビジネスに繋げることを目的として開催されているもので、北総研も道総研ブースに出展し、研究成果を展示します。

当日は研究職員がその場で説明も行いますので、是非会場へお越しください。

日時：平成26年11月6日（木） 10：00～17：30  
平成26年11月7日（金） 9：30～17：00

場所：アクセスサッポロ（札幌市白石区流通センター4丁目）

当日は、地下鉄東西線大谷地駅と会場間に「無料シャトルバス」が運行します。

（企画課 酒井）

□【ジャパンホームショーに出展します】

北総研は「ジャパンホームショー&ビルディングショー2014」の展示企画「第9回ふるさと建材・家具日本市」の北海道グループ出展に、協力します。

このイベントは、毎年秋に東京ビッグサイトで行われる戸建て・マンションなどの“住まい”に関する建材・部材・設備に関する総合展示会で、北総研はそのうち、地域材・国産商品の流通支援を目的とした「ふるさと建材・家具見本市」に出展する北海道グループに、セミナー講師として参加するほか、研究成果を展示します。

北海道グループは青色の看板が目印となっておりますので、ご来場いただいた際には是非お立ち寄りください。

日時：平成26年11月12日（水）～14日（金）  
10：00～17：00

場所：東京ビッグサイト（有明・東京国際展示場）東ホール

（企画課 酒井）

=====  
トピックス 「防火に関する大臣認定仕様の告示化の検討」  
=====

性能評価課では、国土交通大臣より「指定性能評価機関」の指定を受け、建築基準法に基づく防耐火構造や防火設備、防火材料などの大臣認定のための審査に必要な性能評価の業務を行っています。また、企業などからの依頼による建築物などに関する各種試験の実施、実験室や機械器具の設備使用についての事

務処理業務も担当しています。

こうした通常業務の他に、国土交通省が実施する事業についての協力も行っています。本年度は、これまで継続的に行われている大臣認定防耐火構造・材料等のサンプル調査に加えて、「防火に関する大臣認定仕様の告示化の検討」が実施されます。

防耐火構造の大臣認定で類似の仕様が多い壁、柱やはり等の構造方法を告示に位置づけるために必要な実験等を行うものです。具体的には、防火に関する大臣認定の実績の多い仕様（例えば、木耐火構造の外壁、柱、はり、床、屋根及び準耐火構造の外壁等）について、

(イ) 余裕度の検証

性能評価の実験データを基に、個々の認定品の耐火性能の余裕度を検証し、一定の余裕のある仕様の検討

(ロ) 施工性の検証

被覆材の留め付け方法や目地部の処理方法を確認し、一般的な施工技術の水準で十分な性能及び安全の確保が図られる仕様の検討

(ハ) 耐火試験の実施

(イ) 及び (ロ) において検討された仕様について、実証的に耐火試験を実施し、一定の安全性が確実に確保されていることを確認するデータの収集

を行い、これらをふまえ、告示に位置づける仕様に関する基準案を提案します。

(一社) 建築性能基準推進協会が事業主体となり、当機構を含めて全国5か所の防耐火関連の指定性能評価機関が協力する予定です。

(性能評価課 櫻田)

=====  
研究紹介「【経常研究】地域気候に適合する建築物の設計およびまちづくりに向けた気象データの解析手法に関する研究」  
=====

近年、太陽光、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーを活用し環境に配慮したまちづくりが進められています。町の中の気温や風向風速などの気象データは、地形、標高、土地利用、植生などの要素により地域によって大きく異なることがあるため、再生可能エネルギーの導入では、地域内の面的な気象データの分析に基づき最適な立地選定を検討することが重要です。特に風力発電の場合、地形や樹木等により風速が大きく変化するため、詳細な気象解析を行い最適な立地場所を導き出している事例もあります。

本研究は、平成24～26年度の3年間で、面的な気象データを入手するために、領域気象モデルと呼ばれる数値モデルを用いて詳細な気象データを解析することを目的としています。これまでに下川町を対象に、気温・風向風速の定点気象観測を行ったほか、町内の主要な道路を対象に広域の移動気象観測を行い、細かい気象データを入手しました。入手した気象データと数値モデルによる計算結果を比較したところ、両者は比較的良好に一致することが分かり、数値計算により再現可能であることを確認しています。今年度が研究の最終年度と

なりますが、現在、富良野圏域も対象に解析を行っています。

北海道らしい環境に配慮した建築設計やまちづくりなどの場面で、本研究の成果が活かされることを目指しつつ、研究を行っています。

(居住科学G 阿部)

=====  
最近の研究所の動き  
=====

■【第3回日中韓風工学に関する国際ワークショップが開催されました】

9月26日に日中韓風工学に関する国際ワークショップが北総研で開催されました。

このワークショップは日本、中国、韓国の「風工学」に関する第一線の研究者が最新の研究成果を発表し、情報交換や交流を行うものです。毎年各国持ち回りで開催され、日中韓3ヶ国体制となってから初の日本開催地が当研究所となりました。

当日は中国から14名、韓国から10名、日本から16名の研究者が集い、日本風工学会の植松康会長の開会宣言と石塚弘建築研究本部長の歓迎挨拶の後、「台風と竜巻」、「建築物の風工学」、「数値解析」、「橋梁と振動」の4つのセッションで研究発表が行われ、活発な質疑と意見交換が繰り広げられました。

研究発表の合間には当研究所の施設見学ツアーを実施し、日中韓の研究者へ当研究所をPRしました。特に当所の風洞装置は世界的にも希少な実験装置であるため、関心を示す研究者が多く、突っ込んだ質問が集中しました。

ワークショップに参加して印象に残ったのは、各国の風工学の進展は経済発展、特に超高層建築物や長大橋梁の建設と連動しており、建設ラッシュが続いた中国では実際の建設プロジェクトに係る発表が多く、成熟状態にある日本では、過去の建設プロジェクトで培ったノウハウを減災、再生エネ利用、精緻化といった次のステップに繋げ、韓国は丁度その中間に位置するということでした。他国の研究者との相互交流は、新たな研究ダイナミズムを生むことを感じ、アジアにおける自身の研究の位置づけを確認する意味でも大変良い機会に恵まれました。

(環境G 堤)

■【建築士・建築技術者のためのスキルアップセミナー（第1回）に参加しました】

10月11日（土）に後志総合振興局、建築士会后志支部青年委員会、倶知安





メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

[http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail\\_newsletter.html](http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html)

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

---

発行：(地独) 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所